

〈要約〉

東北の未来  
—なせば成る、為さねば成らぬ何事も  
成らぬは人の為さぬなりけり 上杉鷹山公—

The Future of Tohoku  
— Where there is a will, there is a way. — Mr. Yozan Uesugi

高橋 力  
Chikara Takahashi

東北人は素朴でたくましいかわり、消極的で行動が遅い。それは、種族的なもの、風土の影響、歴史伝統から来ているのであろうか。長い雪と寒さの季節。中央文化からの疎外。「攻められる」被圧迫者の歴史。そういったものに古い東北を意味する「みちのく」（陸奥）のイメージが重なるとき容易に「東北人」像が浮かび上がるのであろう。果たして、それが、本当の「東北人」の姿であろうか。

戊辰戦争以来の東北は「白河以北一山百文」とさげすまれ、近代化は敗者の歴史であったが、たび重なる災害に、苦しい生活を余儀なくされるなかで、生きてきた。

戦後、東北の開発の歴史をたどっても、常に、中央から取り残されてきた。やっとのことで近年、苦難の末、新幹線鉄道、高速自動車道の整備により、追いついてきたところだ。

なかなか進まぬ国土の一体的発展。東北人の夢が、努力によって少しずつではあるが、近代化に立ち上がろうとした矢先、また東北は、国難とも言える「東日本大震災」により甚大なる被害に見舞われた。復興は、遅れている。

「復興」が風化されないで進めるためには、何が必要か。苦しさのなか、皆の努力、国内外からの支援の輪が広がり、一歩踏み出した。絶対風化させてはならない。

東北にとっての「光と影」がある。歴史遺産、国際的研究施設の誘致、自動車産業の広域立地、多目的ダムの竣工、東北民を沸かせたプロ野球東北楽天の日本一、三陸鉄道と「あまちゃん」の人気などを光とすれば、人口減少と少子高齢化、農業振興、震災復興、原発政策等の課題は、影の部分と言えよう。

これらの状況から立ち上がるには、国の対策に待つところが大きい、「自らの考えを自らの手で行う」本来の地方自治、地方分権改革が必須条件だ。広域化が進み市町村合併も行った。ことに、これからの若者達にとって、さらに、「住みよい」、「力強い」東北を築くために、東北が今なすべきことは何なのか。

閉塞状況を打破し、東北七県の連携、協力、将来的には、お互いを支えあい、課題を共有化し国に対し発言力を強くする一体化が必要ではないだろうか。たいへんな苦難が待ち構えている。しかし、東北人の魂、忍耐強さ、情熱性、発想力をもってすれば、必ずや夢は実現する。「東北から、世界を変える」。